

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第3学年

【単元名】 夢を叶えて！お蚕様 ～自分だけの繭工作をしよう～（26時間扱い）

【育成する資質・能力】〔思考力、判断力、表現力等〕

全体計画における資質・能力	単元計画における資質・能力
地域のもの、ひと、ことに関して、自らの関心から課題を設定して解決方法を考え、身近なところから情報を集め、事象を比較・分類するなどして、相手に分かりやすくまとめ、表現する。	自分だけの繭工作をするために、最初に自分たちで繭を煮た経験と、蚕糸博物館の皆さんが繭を煮ていた様子を比べ、最後まで切れないように糸を取るための方法を考えることができる。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：「お蚕様を育ててみよう」 蚕の特性や歴史について学んだ。

- ・愛情をもって蚕を飼育し、繭工作をしたいという願いをもつ。

働かせる見方・考え方：理科の見方・考え方（繭の観察）や造形的な見方・考え方（繭工作）などを働かせるとともに、養蚕を多様な角度から俯瞰して捉え、自己の生き方を問い続けること。

段階	学習活動（時間）	留意点
対象と出会い 課題をもち	1 繭工作の計画を立てよう（1） ・実際に繭に触りながら考える。 ・繭を使った様々な作品に出会う。 ・繭工作の計画を立てる。	<p>対象と出会い、見通しをもつ場面</p> <p>☞対象に対する憧れの気持ちを大切にして、単元全体の見通しをもてるようにする。</p>
	2 繭を観察しよう（5） ・繭を観察した気付きを共有する。 ・糸取りに挑戦する。 ・糸取りの困難さを共有する。	<p>自ら課題を設定し、追究の見通しをもつ場面</p> <p>☞課題解決に向けた追究の見通しを具体的にもてるようにする。</p>
繰り返し対象へ働きかけ	3 切れないように糸を取ろう（13） ・自分たちで煮た繭と、博物館で煮た繭を比較する。 ・繭の中まで水が入るように煮るための方法を考え、整理する。	<p>グループで情報収集し、整理・分析する場面</p> <p>☞繰り返し対象に働きかけた結果として得られた情報をグループ内で共有できるよう、グループサイズや情報の共有方法を工夫する。</p> <p>☞得られた情報を整理・分析できるよう、教師が板書を構造化するとともに、子ども自身が整理・分析する手立てを用意する。</p>
	4 自分だけの繭工作をしよう（6） ・自分たちで育てた繭を使う。 ・繭の特性を活かして工作する。	
自分の考えをまとめる	5 繭工作を振り返ろう（1） ・繭工作を通して感じた気持ちを友と伝え合う。 ・単元全体の振り返りを書く。	<p>まとめ・表現をし、自己の学びを自覚する場面</p> <p>☞単元全体で学んだ成果を文字言語で振り返る場面を位置付ける。</p>

問い：どうしたら最後まで切れないように糸を取れるだろうか。

次単元へのつながり：「繭工作の発表会をしよう」

- ・互いに作品のよさを伝え合い、達成感や成就感を共有する。